

愛知・岐阜・三重県で 1996 年に出生した日本人  
61,912 名中の口唇・口蓋裂発生頻度に関する研究  
(分担研究：先天異常のモニタリングに関する研究)

分担研究者 住吉好雄  
研究協力者 夏目長門<sup>1)</sup>  
共同研究者 鈴木俊夫<sup>1)</sup>, 河合 幹<sup>1)</sup>

要約：

1996 年 1 月 1 日より 12 月 31 日の間に出生した日本人 61,912 名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、100 名 (0.162%) に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は 619 人に 1 人であった。

見出し語：口唇裂, 口蓋裂, 発現率

研究方法：愛知・岐阜・三重の 3 県下に所在するすべての出産施設に調査依頼を行い、協力の得られた 549 施設のうち 251 施設を調査対象施設とした。調査対象者は、61,912 名であり、これは同時期の愛知・岐阜・三重県の全出生数 111,703 名の 55.43% である。

下記の項目について記載を依頼した。

1. 施設における総出生数
2. 口唇・口蓋裂児の有無
  - a. 裂型 b. 性別 c. 出生月 d. 出生時体重 e. 他の合併症の有無、内容
3. 施設所在地

結果：愛知県の総出生数の 50.6% に当たる 37,100 名 (136 施設)、岐阜県の総出生数の 69.8% に当たる 14,337 名 (68 施設)、三重県の

総出生数の 58.9% に当たる 10,475 名 (47 施設) について調査した。

本調査では愛知県は 37,100 名中に 57 名、岐阜県は 14,337 名中に 26 名、三重県は 10,475 名中に 17 名の口唇・口蓋裂児が認められた。その結果、本症の出現率は愛知県は 0.154% (1 : 650.9)、岐阜県は 0.181% (1 : 551.4)、三重県は 0.162% (1 : 616.2) であった。この数値をもとに調査対象年の本症患者の総出生数を推定すると 95% 信頼限界内において、愛知県は 112.6 ~ 112.9 名、岐阜県は 37.2 ~ 37.3 名、三重県は 28.8 ~ 28.9 名の本症患者が出生していたと推定される。また、同様に人口動態統計をもとに我が国全体で出生していたと推定される本症患者は 1950.3 ~ 1954.2 名である。

表1 調査対象者

	愛知県			岐阜県			三重県		
	調査対象者	総出生児数	調査率	調査対象者	総出生児数	調査率	調査対象者	総出生児数	調査率
1982年	40,304 名	82,001 名	49.2 %						
1983年	39,696 名	83,925 名	47.3 %						
1984年	41,529 名	83,304 名	49.9 %						
1985年	43,821 名	80,686 名	54.3 %						
1986年	42,375 名	77,425 名	54.7 %	11,336 名	22,597 名	50.2 %			
1987年	42,107 名	77,734 名	54.2 %	9,331 名	22,367 名	41.7 %			
1988年	33,545 名	75,286 名	54.7 %	8,182 名	21,791 名	37.5 %	8,294 名	18,931 名	43.8 %
1989年	40,091 名	71,651 名	56.0 %	8,989 名	20,614 名	43.6 %	7,704 名	18,183 名	42.4 %
1990年	34,034 名	70,942 名	48.0 %	14,280 名	20,295 名	70.4 %	12,058 名	17,918 名	67.3 %
1991年	39,078 名	70,968 名	55.1 %	14,716 名	20,033 名	73.5 %	12,434 名	17,519 名	71.0 %
1992年	44,094 名	71,688 名	61.5 %	11,416 名	20,347 名	56.1 %	9,697 名	17,686 名	54.8 %
1993年	41,569 名	70,807 名	58.7 %	14,477 名	20,017 名	72.3 %	11,622 名	17,368 名	66.9 %
1994年	41,626 名	74,180 名	56.1 %	12,047 名	20,623 名	58.4 %	10,938 名	18,144 名	60.3 %
1995年	38,577 名	71,899 名	53.7 %	14,987 名	20,187 名	74.2 %	9,289 名	17,500 名	53.1 %
1996年	37,100 名	73,377 名	50.6 %	14,337 名	20,546 名	69.8 %	10,475 名	17,780 名	58.9 %
合計	599,546 名	1,135,873 名	52.8 %	134,098 名	229,417 名	58.5 %	92,511 名	161,029 名	57.4 %

1)愛知学院大学歯学部口腔外科学第2講座 (The 2nd Dept. of Oral & Maxillofacial Surgery, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University)

表2 本症患者出現頻度

	愛知県				岐阜県			三重県				
	本症患者	調査対象者	出現率	出現頻度	本症患者	調査対象者	出現頻度	本症患者	調査対象者	出現率	出現頻度	
1982年	83名	40,304名	0.206%	1: 485.6								
1983年	65名	39,696名	0.164%	1: 610.7								
1984年	52名	41,529名	0.125%	1: 798.6								
1985年	64名	43,821名	0.146%	1: 684.7								
1986年	60名	42,375名	0.142%	1: 706.3	21名	11,336名	0.185%	1: 539.8				
1987年	61名	42,107名	0.145%	1: 690.3	14名	9,331名	0.150%	1: 666.5				
1988年	40名	33,545名	0.119%	1: 838.6	18名	8,182名	0.220%	1: 454.6	13名	8,249名	0.158%	1: 634.5
1989年	58名	40,091名	0.145%	1: 691.2	12名	8,989名	0.133%	1: 749.1	13名	7,704名	0.169%	1: 592.6
1990年	44名	34,034名	0.129%	1: 773.5	18名	14,280名	0.126%	1: 793.3	17名	12,058名	0.141%	1: 709.3
1991年	45名	39,078名	0.115%	1: 868.4	25名	14,716名	0.170%	1: 588.6	16名	12,434名	0.129%	1: 777.1
1992年	54名	44,094名	0.122%	1: 816.6	23名	11,416名	0.201%	1: 496.3	13名	9,697名	0.134%	1: 745.9
1993年	71名	41,569名	0.171%	1: 585.5	15名	14,477名	0.104%	1: 965.1	10名	11,622名	0.086%	1: 1162.2
1994年	50名	41,462名	0.121%	1: 829.2	10名	12,047名	0.083%	1: 1204.7	15名	10,938名	0.137%	1: 729.2
1995年	58名	38,577名	0.150%	1: 665.1	20名	14,987名	0.133%	1: 749.4	16名	9,289名	0.172%	1: 580.6
1996年	57名	37,100名	0.154%	1: 650.9	26名	14,337名	0.181%	1: 551.4	17名	10,475名	0.162%	1: 616.2
合計	862名	599,382名	0.144%	1: 695.3	202名	134,098名	0.151%	1: 680.5	130名	92,466名	0.141%	1: 711.3

表3 本症患者の総出生数の推定

	愛知県		岐阜県		三重県		全国	
1982年	168.6	~ 169.2名					3117.3	~ 3124.1名 (95% C.L.)
1983年	136.5	~ 137.1名					2467.3	~ 2473.5名 (95% C.L.)
1984年	103.9	~ 104.7名					1862.8	~ 1868.0名 (95% C.L.)
1985年	117.5	~ 118.1名					2088.2	~ 2093.4名 (95% C.L.)
1986年	109.8	~ 110.1名	41.6	~ 41.9名			1955.6	~ 1960.7名 (95% C.L.)
1987年	112.6	~ 112.9名	33.5	~ 33.6名			1948.4	~ 1953.4名 (95% C.L.)
1988年	89.4	~ 89.7名	47.8	~ 48.1名	29.8	~ 30.0名	1964.4	~ 1969.3名 (95% C.L.)
1989年	105.2	~ 105.5名	28.0	~ 28.1名	35.4	~ 35.5名	1801.4	~ 1806.1名 (95% C.L.)
1990年	91.4	~ 91.7名	26.0	~ 26.1名	25.2	~ 25.3名	1577.0	~ 1581.8名 (95% C.L.)
1991年	81.6	~ 81.8名	34.0	~ 34.1名	23.4	~ 23.5名	1410.6	~ 1417.3名 (95% C.L.)
1992年	87.3	~ 87.6名	40.8	~ 41.0名	25.4	~ 25.5名	1473.0	~ 1477.0名 (95% C.L.)
1993年	120.9	~ 121.2名	20.8	~ 20.9名	14.9	~ 15.0名	1684.1	~ 1687.5名 (95% C.L.)
1994年	89.3	~ 89.6名	34.0	~ 34.1名	24.8	~ 24.9名	1491.1	~ 1495.4名 (95% C.L.)
1995年	108.0	~ 108.2名	26.9	~ 27.0名	30.1	~ 30.2名	1773.5	~ 1777.1名 (95% C.L.)
1996年	112.6	~ 112.9名	37.2	~ 37.3名	28.8	~ 28.9名	1950.3	~ 1954.2名 (95% C.L.)

裂型分類についてみると愛知県では口唇裂23名、口唇・口蓋裂18名、口蓋裂14名、岐阜県では口唇裂9名、口唇・口蓋裂13名、口蓋裂1名、三重県では口唇裂5名、口唇・口蓋裂9名、口蓋裂3名であった。

また、裂型・性別合併症発現比率について集計したところ男では口唇裂11.9%、口唇・口蓋裂14.2%、口蓋裂23.8%、女では口唇裂8.8%、口唇・口蓋裂20.0%、口蓋裂22.0%であった。また、出生月の明らかな1,112名についてその出生月を

集計した。

表4 裂型分類（愛知・三重・岐阜）

	単位：名			
	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂	合計
愛知	23	18	14	55
岐阜	9	13	1	23
三重	5	9	3	17
合計	37	40	18	95

本調査も愛知県においては 16 年目を迎え、患者数も愛知・岐阜・三重の 3 県を合わせると 1,200 名を超えた。そこで生下時体重が明らかな 1,027 名について裂型別に体重を集計したところ、口唇裂 2990.3 g (±19.1)、口唇・口蓋裂 2965.7 g (±27.6)、口蓋裂 3011.7 g (±33.1)、男女別では男 3017.9 g (±23.7)、女 2942.1 g (±24.2) であった。

考察：

本研究は 1981 年より本学の所在する愛知県において愛知県産婦人科医会、並びに助産婦会の協力を得て調査を開始し、1984 年から解析プログラムを開発してデータベース化をはかっている。本プログラムには 1996 年までの 1,248 名の登録を行った。本データベースに登録された 1982~1996 年の総調査対象数は 826,155 名で本症患者は 1,194 名であったので、本症発現率は 0.145% であった。

裂型分類については 1981~1996 年の 1,248 名についてみると表 8 のごとく男では口唇裂 251 名、口唇・口蓋裂 344 名、口蓋裂 101 名であった。女では口唇裂 179 名、口唇口蓋裂 217 名、口蓋裂 156 名であった。

われわれの施設においては、データベースにて疫学解析を行う場合、病院統計による誤差を最小にするため Primary case のみを基本資料とするようにしているが、この方法をとったところで前述のことを防ぎえない。このため、われわれは、本症発現率、季節変動については東海地区の出産施設のものをモニタリングして、本症の発現率に著しい変動が生じた場合は直ちにわれわれの施設に来院した患者集団において、環境要因等を含めた詳細な調査を行う体制をとっているが、現在まで幸いにして本症発現率の著しい上昇は認めていない。しかし、今後もこのような状態が生じた場合に直ちにを即応できるような体制を維持したいを考えている。

最後に本調査に関して御協力を賜りました産婦人科医会、助産婦会の皆様及び調査集計、解析を担当した住田成子秘書に深謝致します。

表5 裂型・性別平均体重 (g) Mean(±SE)

	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂	計
男	3024.4 (±38.0)	2997.2 (±35.1)	3070.4 (±59.2)	3017.9 (±23.7)
女	2943.5 (±40.1)	2914.8 (±44.1)	2975.3 (±38.9)	2942.1 (±17.1)
合計	2990.3 (±19.1)	2965.7 (±27.6)	3011.7 (±33.1)	2984.1 (±17.1)

対象患児：1984~1996年 愛知、岐阜、三重  
三県の裂型、体重、性別の明らかな1027名

表6 裂型・性別合併症発現比率

	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂	計
男	26/219 11.9%	39/274 14.2%	20/84 23.8%	85/577 14.7%
女	14/160 8.8%	35/175 20.0%	29/132 22.0%	78/467 16.7%
合計	40/395 10.1%	74/482 15.4%	49/227 21.6%	163/1044 15.6%

1983~1996年 愛知・三重・岐阜三県の裂型性別の明らかな1104名中、合併症不明60名を除く

表7 月別出生数

出生月	出生数	※1 出生率	※2 全国平均
1月	81	7.3%	8.3%
2月	86	7.7%	7.6%
3月	99	8.9%	8.2%
4月	93	8.4%	8.1%
5月	78	7.0%	8.5%
6月	79	7.1%	8.3%
7月	99	8.9%	8.9%
8月	110	9.9%	8.8%
9月	84	7.6%	8.6%
10月	107	9.6%	8.4%
11月	90	8.1%	8.0%
12月	106	9.5%	8.3%
合計	1,112	100.0%	100.0%

※1 1982年~1996年 愛知、岐阜、三重県の出生月の明らかな1112名の出生率

※2 全国平均は過去5年間の平均値

表8 裂型分類（東海三県）

	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂	合 計
男	251名 (36.1%)	344名 (49.4%)	101名 (14.5%)	696名 (100.0%)
女	179名 (32.4%)	217名 (39.3%)	156名 (28.3%)	552名 (100.0%)
合計	430名 (34.5%)	561名 (45.0%)	257名 (20.6%)	1248名 (100.0%)

文献

1. Natsume, N., Suzuki, T., and Kawai, T. : Clinical analysis of cleft patterns of lip and palate, Cong. Anom., 24: 74-82, 1984
2. Natsume, N., Suzuki, T., Kawai, T. : The prevalence of cleft lip and palate in the Japanese. Brit.J.Oral.Maxillofac.Surg. 26: 232-236, 1988



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

1996年1月1日より12月31日の間に出生した日本人61,912名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、100名(0.162%)に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は619人に1人であった。